

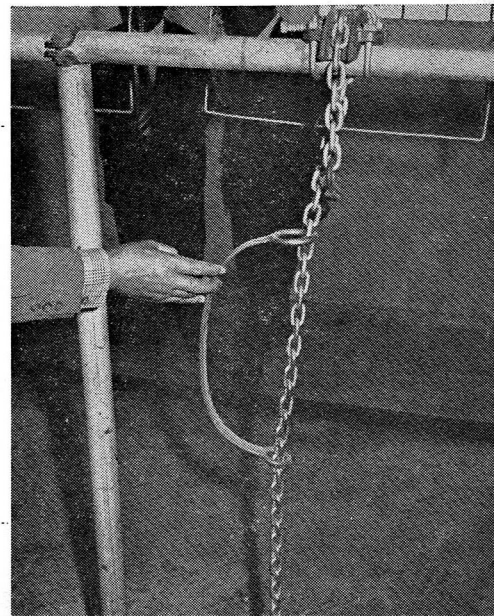


雄仔牛の肥育も低乳価対策の一つ
(仔牛肥育牛房)

ヨーロッパ農業短見記 ⑥

デンマークの酪農と草地(下)

上野幌育種場長 三浦 梧 楼



施設も経済性と便利さをモットー
—クサリのスタンション—

ことによるもので、特に雇傭労力に依存していた大規模農家でこの傾向が強くなり、同時に乳牛の飼育を続けようとする農家は頭数を増加する方向に進んでおります。

(4) 低乳価対策

—産乳能力の向上と安い飼料、そして養豚、雄仔牛の肥育併行で、乳、肉の二面に利潤追求—

デンマークの牛は一九三〇年に三〇〇万頭に達しその後も現在に到るまで三〇〇万頭を維持し、一九六一年の三五九万頭を最高に最近では少々減少の傾向を示し一九六四年には三二八万頭とみられておりますが、この減少傾向は今後もなお続くであろうといわれていますが、その原因は主として労賃の値上がり(第四表でみますと一時間四〇〇円)、輸出価格が良くなかったこと等に起因して収益性が増加しないうために乳牛を全く手放し牛舎を改造して労力的にずっと楽な養豚に集中する農家が増加した

千トの粉煉乳を製造し、(牛乳使用区分バター用五八%、チーズ一七%内外で、バターが減少、チーズが増加傾向)製品中バター六七%、チーズ六六%が英国及び西独に輸出され、他国への輸出によって農業を支えている国であるだけに輸出市場の問題があり、これに関連して価格問題が派生して行くわけで、次ぎのような僅かな国の保護政策はありますが、農家個々も経済競争力の強い自立経営の確立につとめているように感じました。

◎乳牛補助金 一頭当たり四、一六〇円(但し一〇頭迄)
◎肥料購入補助 肥料購入価格の平均一〇%の補助金
◎小農への融資 一〇%以下の小農の土地家屋購入には年利四・五%、六〇年償還の資金準備(但し実質金利は可成り高くなります)。
乳価 その計算法はなかなか複雑で農民はよく理解していないようですが、例えば昨年五月のボーゲンセ製酪協同組合の場合脂肪率四・〇%の一キ当たり牛乳価格が二二・一円で、これから約四・七円の運営費等を控除、それに決算利益の後払いが約四円で一キの手取乳代が二一・二円、北海道並みの三・二%脂肪の場合ですと一八・一九円という実に二等乳価格に近い低乳価です。

◎畜量助成金 一九六〇年の評価額が二五〇二五〇万円の耕地所有農家で所得の三分の二以上を農業から得ている場合一戸当たり一万円〜四万円

◎肥育方法

雄仔牛の肥育方法	体重(キ)	生体重(キ)
牛乳代用飼料による仔牛肥育(オランダのデンカピットに相当)	一五〇	二三〇
脱脂乳による仔牛肥育	二五〇	一八〇
若雄牛肥育	五〇〇	一八〇
ホワイトビール、ベビービール、ビール		

更に最近の牛肉の価格の好調で雄仔牛の肥育も積極的に進められ、低乳価対策の一助としていますが、このことは日本においても注目されてきておりますので、デンマークでの雄仔牛の肉肥育の概要を紹介しましょう。

第4表 牛乳代用飼料と脱脂乳肥育の経済性

	牛乳代用飼料区		脱脂乳区		
	量	金額	量	金額	
可 変 経 費	分娩直後の仔牛1頭	—	12,500	—	12,500
	牛乳代用飼料 kg	160	20,400	—	2,050
	脱脂乳 kg	—	—	475	@7.5円 3,550
	配合飼料 FE	—	—	310	9,300
	ビート FE	—	—	230	3,400
	その他(獣医、抗生物質等)	—	1,500	—	1,500
	利息	—	500	—	700
	危険率(可変経費の10%)	—	3,500	—	3,250
	小計		38,400		36,350
	固定経費	管理費時間	5	2,000	8
建物 m ²		1	1,500	2 $\frac{1}{2}$	3,750
経費合計			41,900		43,300
肥育終了時体重 kg		150	—	240	—
生体1kg当たり可変経費		—	256	—	152.5

第5表 雄仔牛の肥育経済

	粗飼料主体区		配合主体区		
	量	金額	量	金額	
可 変 経 費	分娩直後の仔牛1頭	—	12,500	—	12,500
	全乳 kg	164	2,450	159	2,400
	脱脂乳 kg	299	2,250	293	@7.5円 2,200
	配合飼料 kg	489	@ 38円 18,600	1,693	@ 35.5円 60,100
	粗飼料 FE	1,783	26,750	691	10,350
	利息	—	4,100	—	5,800
	その他(獣医、鉱物質等)	—	2,500	—	2,500
	危険率(可変経費の10%)	—	6,900	—	9,600
	小計		76,050		105,450
	固定経費	管理費		7,500	
建物費 (3.4m ²)			6,750		6,750
経費合計			90,300		119,700
屠殺時体重 kg		532	—	531	—
生体1kg当たり可変経費		—	143	—	198.5
同上経費合計			169.5		225.5

の三段階についてみててもその価格は日本に較べて若干安値であるように思われますが、乳価と肉価のバランスをみますと日本の乳牛が何故肉に転化するか理解に苦しみます。もっともデンマークにおいてはホワイトビールは価格が悪すぎるためにこの種の肥育は現在影をひそめてきているということでした。

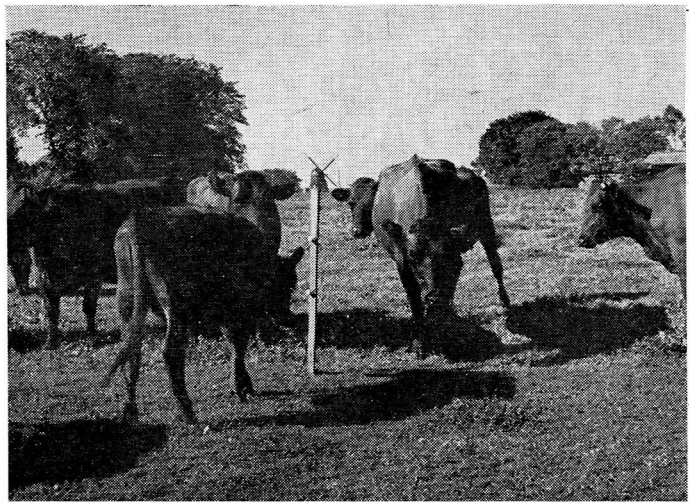
◎肥育経済の検討

- デンマークにおける仔牛肥育試験の経済成績を示すと第四、五表の通りでそれぞれの生産経費と経済性を要約しますと
- (イ) 牛乳代用飼料(デンカピットに相当)で体重一五〇キ程度まで短期肥育のものは生産経費生体一キ当たり二五六円に対し肉価は二三〇円で採算割れ。
 - (ロ) 脱脂乳と配合飼料、根菜で二四〇キまで肥育したものは生産経費一五二・五円に対し肉価一八〇円でキロ当たり約三〇円の純利益(総純利益七、二〇〇円)
 - (ハ) 粗飼料主体で五三〇キまで肥育したものは生産経費一六九・五円に対し、肉価一八〇円でキロ当たり一〇円の純利益(総純利益五、三〇〇円)
 - (ニ) 配合飼料主体で五三〇キまで肥育した場合は生産経費二二五・五円に対し肉価一八〇円でこれも採算割れ、という結果となりデンマークにおいては脱脂乳(キロ七・五円)と配合、ビートで飼育した二四〇キ(約七ヶ月飼育位)が最大の利益を生んでいるという結果になります。
- ただし日本の場合を考えますと、生体五〇〇キ程度になりますと肉価が中犢(二四〇キ内外)よりも高く有利であることを忘れてはなりません、日本の一部で開始されてきたホワイトビールもデンマークの現

状では経済性は低いようで、雄仔牛も安い粗飼料を用いて可成り大きくすることが経済性の面から必要のようで、このことについては私共の上野幌育種場で日本の経済情勢下で数段階に分けて検定試験を行なっておりますので、今夏までには一応の成績が得られましよう。

(次号はデンマークの飼料と草地)

※(本稿の統計、資料の数字は普及員ビルン氏及びデンマーク在住の農業中山敬彦氏の提供による・記して感謝)



デンマーク農家の赤牛

—デンマークの代表的乳用種—